

第7回山ノ内町立学校づくり準備委員会 次第

日 時 令和7年11月27日（木）
午後5時30分～午後7時30分
場 所 山ノ内町文化センター 3階ホール

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 報告事項

（1）前回委員会の会議結果について

4. 会議事項

（1）学校づくりシンポジウムの開催結果について

（2）山ノ内町立統合学校整備基本方針（案）について（※グループ討議）

5. その他

次回準備委員会

- ・日 時：令和7年12月17日（水）午後5時30分～午後7時30分
- ・会 場：山ノ内町文化センター 3階ホール

6. 閉 会

山ノ内町立学校づくり準備委員会11月ワークショップ名簿

	所属等	氏名	グループ
1	西小学校長	竹内 由紀	A
2	東小学校 P T A	南條信太郎	
3	すがかわ保育園保護者会	丸山恵美子	
4	よませ保育園保護者会	小淵 正成	
5	主任児童委員	佐藤 重子	
6	里山ようちえん おやまのおうち	山崎 龍平	
7	オブザーバー（専門部会委員）	望月和佳奈	
1	山ノ内中学校長	山口 近	B
2	南小学校 P T A	平原 剛	
3	かえで保育園保護者会	大畠 若菜	
4	園長会（志賀高原保育園長）	岩本 光	
5	議会社会文教常任委員会委員長	高田 佳久	
6	社会教育委員	羽田 吉彦	
7	オブザーバー（専門部会委員）	畔上 恵子	
1	東小学校長	北垣内 博	C
2	志賀高原保育園保護者会	佐藤 穂積	
3	山ノ内中学校 P T A	小湊 崇法	
4	子ども会育成会連絡協議会長	下田 敏雄	
5	公募委員	新井 彩香	
6	I C T 教育コーディネーター	清水 智	
7	オブザーバー（専門部会委員）	瀬川 夏実	
1	南小学校長	中村まゆみ	D
2	西小学校 P T A	渡邊 充	
3	ほなみ保育園保護者会	山戸真理子	
4	区長会	山崎 昭	
5	学識経験者（学校長経験者）	原 隆文	
6	公募委員	杉戸 香奈	
7	オブザーバー（専門部会委員）	金井 学	

事務局	教育長	竹内 延彦	A
	教育次長	望月 弘樹	C
	こども未来課学校統合準備係長	山本 敏幸	B
	こども未来課学校統合準備係	畔上 俊樹	
	こども未来課学校統合準備係	菅原 勇介	D

山ノ内町立学校づくり準備委員会 会議結果報告書

資料 1

会議名	第6回 山ノ内町立学校づくり準備委員会	
日時	令和7年10月28日(火) 午後5時30分～午後7時30分	
会場	よませふれあいセンター 軽運動室	
出席・傍聴人数	出席 21人 / 欠席 8人	傍聴者 5人
会議内容	<p>【報告事項】</p> <p>(1)前回委員会の会議結果について (資料1) (2)まちづくりこども委員会の会議結果について (資料2)</p> <p>【会議事項】</p> <p>(1)先進地視察の結果について (2)統合学校の開校に向けたコンセプトについて</p> <p>＜テーマ＞最高の居場所をより具体的にイメージする『グループ討議』(資料3)</p> <p>4グループに分かれ、テーマ①では先進地視察の報告を聞いて思った点について意見を出し合い、グループ内で出た意見を発表した。テーマ②では前回の議論の続きで、「最高の居場所をより具体的にイメージする」というテーマで討議を実施した。1. 実現したい最高の空間を3つ決める(赤色)、2. その実現における問題点や課題(青色)、3. 課題を解決するためのアイデア(黄色)を付箋に書き模造紙に貼り、グループごとで意見をまとめた。グループごとに張り出した模造紙を見ながら、議論の内容の共有を図った。</p> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 11月16日(日)学校づくりにかかるシンポジウムについて 	
決定事項等	<ul style="list-style-type: none"> 第7回学校づくり準備委員会 11月27日(木)17:30～山ノ内町文化センター 	
会議概要及び質問・意見等	<p>【グループ討議まとめ】</p> <p>テーマ①：先進地視察を振り返る</p> <p>○さくほっこ(佐久穂町)</p> <ul style="list-style-type: none"> 建物の再利用や、費用をかけない運営に感心した。 児童館(5時まで)と児童クラブ(5時以降、保護者迎え)が一体的に活動できる点が、活動の幅を広げられると感じた。 施設は一つだが、各活動が独立している印象がある。イメージとの相違や学校の延長のように感じた。また、さくほっこは学校に隣接し、徒歩5分の好立地だが、山ノ内町での展開は立地的に難しく課題がある。 <p>○上田市立北小学校(上田市)</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師が楽しそうに活動し、子どもが真剣に関わる姿が印象的であった。 教師と講師の区別がつかないほど馴染んだ風景だった。 クラブ活動時間が90分であり、講師側にとってやりやすい時間を感じた。 <p>○共通の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域や学校内外の活動をつなぐコーディネーターが必要である。 地域の方が関わるクラブ活動が、プレゼンで決まる仕組みは楽しそうだ。 子どもが「選ぶ楽しさ」を得られるような活動の継続ができればよいと思う。 	

会議概要及び 質問・意見等	<p>テーマ②：最高の居場所をより具体的にイメージする</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主な提案された最高の空間（赤の付箋）： <ul style="list-style-type: none"> ・体験・ラボ的な専門分野を学べる教室。 ・交流スペース（フリーに使える広い空間、階段など）。 ・パーソナルスペース（個人のリラックス、集中、一人になれる空間）。 ・ラウンジ（カフェ・売店のような飲食もできる空間）。 ・動物が飼える施設。 ・中庭。 ・地域交流室。 ・多機能図書館。 2. 主な課題・問題点（青の付箋）： <ul style="list-style-type: none"> ・敷地の確保や維持管理、管理する人材の確保。 ・パーソナルスペースにおける安全面（見守り、カメラ、入退室管理など）。 ・地域交流におけるゾーニングの課題。 ・動物飼育をした際の責任者、臭い、掃除などの問題。 ・専任スタッフや財源。 3. 主な解決アイデア（黄色の付箋）： <ul style="list-style-type: none"> ・地域の力、スポンサー、企業の協力を得る。 ・ラウンジを役場の人にも利用してもらい、日常的に使ってもらう。 ・生き物スペースの掃除を生徒の交代制で行う。 ・中庭について、「こうしなさい」という細かいルールを設定せず、子どもの発想力・想像力を高める場とする。 <p>○グループワーク総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理的な壁よりも、「固定化された学校のイメージ」が問題であり、空間の概念を変える。 ・子どもが主体的に学ぶには、パーソナルスペースや地域とつながるような多様な空間が必要。 ・安全を追求しすぎて施設を「つくり込みすぎ」と、かえって子どもの危険回避能力や主体的な成長の機会を奪ってしまうので、施設をつくりこみすぎないという視点を持つことが必要である。 ・プレイパークのような「危険な場所」の方が、けがは少ないという状況もあるので、未完成でチャレンジできる空間も大事である。 ・最新の設備やモノ（市販品）を与えるよりも、地元にあるものや子どもと大人が一緒に「つくり出す」シンプルな空間こそが、子どもの創造性を育み、質素であっても教育の価値をよく考えることが大事である。 ・あるものを生かしてそこから何かをつくり出す意識をもち、施設をつくり込みすぎることで子どものクリエイティブ性を摘まないように考えるべきである。
------------------	---

山ノ内町立学校づくり準備委員会グループワーク テーマ「最高の居場所を具体的に描く」

1 観察の振り返り

先進地視察に参加したメンバーから、視察結果の報告を受けて以下のような意見が出された。

- 放課後の居場所のあり方
 - 児童館と児童クラブの役割を時間で区切るシステムは、こどもたちの活動の幅が広がるため良いシステムである。
 - 空き校舎を活用した放課後の居場所づくりは、子育て支援の観点からも検討する価値がある。
 - 学校の近くに児童館や児童クラブがあれば、連携が容易になり、こどもたちの活動の幅が広がるため望ましい。山ノ内町の場合は、移動方法や管理体制に課題がある。
- 佐久穂町の事例（旧小学校跡地利用）
 - 施設は旧小学校のままで、修繕費用を抑えて活用していたことがわかった。
 - あまりリノベーションされておらず、学校の継ぎの印象が強く、こどもたちがワクワクして楽しく過ごす場所としては物足りなさを感じた。
 - 「低予算で活用する」という現実的なイメージは把握できた。
 - 子育て支援スペースは、乳幼児の利用には不十分な印象があった。
 - 保健センター機能を持った複合施設の形は望ましいという意見が出た。
- 上田市立北小学校の事例
 - 観察に参加したメンバーにとってワクワクした。
 - 学校と地域住民が活発に交流し、地域住民が生き生きと活動していた。
 - こどもたちは自分の興味関心を深く追究する姿が見られた。
 - 教職員と地域住民の区別がつかないほどに一体となってクラブ活動に取り組んでいた。
 - 講師によるプレゼン大会など、こどもたちにとってワクワクするものだろうと感じた。

2 議論の核となった「最高の居場所」の主要なアイデア

各グループの議論は、以下の3つの大きな方向性で具体的な空間の実現可能性を深めた。

- 「居場所」の質的向上：個人の安心と自由な活動を保障する空間
 - 個人の自由・安全の確保：一人になれる空間（個室、隠れる場所）や、パーソナルスペースを確保する。異年齢グループで対話や活動を循環させながら学べる落ち着ける場所があるとよい。
 - 交流・発散：生活交流空間（ゴロゴロできる、おしゃべりできる）や、大声を出せる場所の必要性がある。
 - 多機能図書館：単に本を読むだけでなく、静かに学習や研究ができる場所として機能を拡張する。
- 「場」の拡張と接続：学校と地域、内と外を繋げる空間
 - 外構活用：中庭の充実、グラウンドの多目的活用（いつでもスポーツ、遊び場）があるとよい。
 - 地域との交流：交流スペース、温泉やカフェの設置など、地域住民との交流を前提とした施設づくりが必要である。複合施設として保育園、学童、会議室などを集約するアイデアが出た。
 - 専門分野の探究：ラボ的な専門分野を学べる教室を設け、深く探究し研究や実験を行う場所があるとよい。
- 創造性と専門性の支援：学びを深めるための特別な環境
 - 生命との触れ合い：生き物（動物）とのふれあいを実現する。学校に自然環境（動植物）と親しめる環境（ビオトープなど）があるとよい。
 - メディア・ICT：パソコンやワークショップ機能を持つ場所など、デジタルでの自由な表現を可能にする環境が望まれる。
 - 専門家の配置：SC（スクールカウンセラー）などの相談体制や、専門的な技能を持つ人材の活用が望まれる。

3 アイデア実現に向けた「課題」と「解決策」

アイデアを具体化するうえで不可避な障壁を特定し、それを乗り越えるための実効性の高い手段に焦点を当てた。

3.1 物的環境の課題と解決策

課題の焦点となつたアイデア	課題の内容(物的環境)	課題をクリアするための解決策
①パーソナル スペース/個室	個室は構造上のコスト増につながる。スペース(広さ)の確保が必要である。	家具や可動式のパネルで対応する。既存の空間(階段、図書館の棚の間)を活かした設計とする。テントやグランピングドームのようなものを活用する。
②生き物との ふれあい	場所の確保、匂いや清掃の困難さ、エサの確保が課題である。	地域の詳しい人に協力を依頼する。スーパーや八百屋と提携してエサを確保する。堆肥場を作り、エサの残りを活用する。
③交流スペース (温泉/カフェ/ プール)	衛生管理、維持管理費、初期投資が学校予算にとって大きな負担となる。空調設備などお金の必要性がある。	地域と共同で設備投資を行う。利用料を設定し、収益で維持費を賄う。指定管理や地域住民の清掃ボランティアで維持管理を行う。屋内プールを作り、スイミングスクールに管理を委託する。
④安全性/ 外構の活用	屋上や中庭の利用には、見通しの悪さや転落防止など安全面の対策が必要である。土や砂場の整備には整備費用が発生する。	防犯カメラやフェンスを設置する。見守りやすいレイアウトを設計段階で工夫する。地域資源(例:丸太)を活用し、既存の地形を活かすことでコストを抑制する。

3.2 人的環境の課題と解決策

課題の焦点となつたアイデア	課題の内容(人的環境)	課題をクリアするための解決策
①個人の自由/ 安全の確保	自由な活動や一人になれる場所が増えることで、管理や見守りの目が行き届きにくくなる。見守りにかかる人員や見守る先生の確保が必要である。	教員以外の大人(地域の人やボランティア)に見守りを依頼し、多角的な支援体制を確保する。安全に対する意識改革が必要である。
②自然環境 (動植物)	管理する人や、命の大切さを通して教える人の確保が必要である。	人材の確保が最大の課題であり、やはり地域の方の力が必要である。地域の詳しい人に協力してもらい、責任を共有する。
③施設の 多機能化	多機能図書館やメディアラウンジの整備に伴い、専門的な知識を持つ教員や技術者が不足する。	技術指導ができる専門スタッフを雇用する。地域に住むIT関係者や企業OBとの連携を図り、外部人材を積極的に活用する。
④教員の働き方	交流スペースや地域との連携が増えることで、教職員の業務量や負担が増加する。	職員室のレイアウトを見直し、機能的な配置にする。教員以外の職員やボランティアで業務を分担する。

3.3 社会的環境の課題と解決策

課題の焦点となつたアイデア	課題の内容(社会的環境)	課題をクリアするための解決策
①学校の開放性	地域住民が学校を広く利用することに対する、保護者や教職員の心理的な抵抗や防犯上の懸念が生じる。地域の人が学校へ来にくくい現状がある。	学校と地域住民の交流を目的としたイベントを増やし、相互理解を深める。利用者 ID を設けて入退室管理を徹底する。カフェなど、誰もが何をきっかけに話せばいいのかが分かるような仕掛けづくりをする。
②娯楽・自由な活動	漫画、テレビゲームなど、学習と直接関係のない活動の導入に対する社会的な批判や教育的意義の説明責任が生じる。	利用ルールを明確に定め、時間や場所を限定する。遊びを通じた創造性やコミュニケーション能力の育成という教育的価値を外部に説明し、理解を求める。
③全般	施設を実現するためには、大人の意識を改革し、企業などの協力を得る必要がある。多岐にわたるアイデアについて、町の財政状況との調整が必要である。	地域企業と連携し、企画段階から地元の専門家に意見を求め、資材確保のルートを確立する。長期的な収支計画に基づき、優先順位をつけて整備を行う。

4 伏木委員長からの総括

- 施設をつくりこみすぎないという視点を持つことが必要である。
- 学校は安全な場であることが大前提だが、「安全」への意識に対して、もう少し見方を変えることを示唆している。プレイパークのような場の方だけが少ないという状況がその根拠である。
- 質素であっても、教育の価値をよく考えることが大事である。
- あるものを生かしてそこから何かをつくり出す意識をもち、施設をつくり込みすぎることで子どものクリエイティブ性を摘まないように考えるべきである。

5 今回の議論のまとめ

- 今回の議論は、単なるアイデア出しから、「教育は金と人」という根源的な課題認識へ移行した。
- 「最高の居場所」の実現には、人材の確保が最大の課題であり、地域の方の力(ボランティア)が不可欠であるという考えが共有された。
- コストや専門性の課題を乗り越えるため、企業、地域の専門家といった外部資源との連携を深める必要がある。
- 学校は「地域の即戦力を育てる場所」であるという共通認識が生まれた。
- 子どもの創造性を尊重し、その分を人材や運用に回すという施設利用価値の転換が必要である。学校を使う人が可変できるよう空間として余白を残すことを念頭において検討をする。

意見交換

シンポジウムの振り返り
と
「整備基本方針（案）」の具体化

本日のキャプテン

みんなで王様じゃんけんをしましょう

王様は……

竹内教育長です

あいこのひとだけ立っていてください!!

グループの中で一緒にタイミングになった場合は、
その人同士でじゃんけんをして、勝った人がキャプテンです。

キャプテンが決まったグループから自己紹介をお願いします。

ラウンド1

11月16日のシンポジウムを振り返りましょう。

伏木先生にとって印象的だったのはどんなことですか??

猿渡さんと、伴さんとオンラインがつながっています!!

印象的だったことを聞いてみましょう。

ラウンド1

11月16日のシンポジウムを振り返りましょう。

グループワーク

印象的なこと、新しい学校づくりでいかしたいと思ったこと

ラウンド2 整備基本方針(案)について

整備基本方針とは

- ・中学校敷地での施設整備の基本的な考え方を示すもの。
- ・教育未来ビジョンを踏まえ、これから町が行う特色ある教育を進めるにあたり、どのような施設が必要かなど、来年度に作成する整備基本計画(基本設計)の基となるもの。

この準備委員会の大きな役割は
「整備基本方針(案)」をかためて、教育委員会に提案することです。

整備基本方針のこれから扱い

2月 教育委員会に提案し、教育委員会で決定します。

3月頃 総合教育会議で町長に提案 → 決定

来年度 この方針に基づいて、設計業者が設計を行います。

整備基本方針(案)の説明

- ・5月に示した整備基本方針(案)から更新をしたポイント
 - 1 学校が地域全体の核として、「ともに学び ともに育つ」場となることを明記
 - 2 特色ある施設(教室等)の整備方針や考え方を具体化
 - 3 想定施設を義務教育学校として、小・中の機能を含む形に変更

整備基本方針(案)の説明

整備基本方針【資料5】の内容を簡単にお話しします。
スライドをご覧ください。

・グループワークで重点的に議論をしてほしい部分

A:新しい学校のコンセプトや学習内容について 第2章および6ページ

B:新しい学校の施設・設備 9ページ 10ページ

C:新しい学校の開校と4つの学校の閉校 11ページ 12ページ

D:地域連携や交流 9ページ 10ページ等

グループワークの進め方 ①

付箋の色 Aテーブル:赤 Bテーブル:青 Cテーブル:黄色 Dテーブル:緑

それぞれのグループで1～4の分担をつくる (約2分)
(人数はそれぞれ1～2名でお願いします)

- 1:新しい学校のコンセプトや学習内容について
- 2:新しい学校の施設・設備
- 3:新しい学校の開校と4つの学校の閉校
- 4:地域連携や交流

まずはここまで全グループで

グループワークの進め方 ②

グループで自由に整備基本方針について付箋記入とおしゃべり
(個人5分 おしゃべり15分程度)

- ・主に6ページ以降の内容についてお願いします
- ・付箋はどんどん模造紙にはってください

※付箋に書く内容について

- ・ここが気になる
- ・こういう内容も書いたほうがいいと思う
- ・これがすごくイイね!
- ・ちょっと何言っているかわからない…

グループワークの進め方 ③

分担者は該当する付箋をはがしてもってテーマグループに移動する(5分)

- ・どこにも該当しないかもの付箋
→模造紙の端に寄せて貼つておく
- ・内容が重なるもの
→お手数ですが、同じ付箋をもう一枚
書いて持っていく

テーマグループ

Aテーブル

新しい学校のコンセプトや学習内容について

Bテーブル

新しい学校の施設・設備

Cテーブル

新しい学校の開校と
4つの学校の閉校

Dテーブル

地域連携や交流

グループワークの進め方 ④

テーマグループで持参した付箋を貼りながらさらにおしゃべり(15分程度)

- ・はじめに共有の時間の中心となる発表者を決めてください
 - ・それぞれのテーブルからどんな付箋(内容)がでたか紹介してください。
 - ・それをもとに話をさらに深めてください。
-
- ・あらたに付箋を付け加えたり、マジックで強調したり、どんどん行ってください。

→ 模造紙の完成!!

共有の時間

- ① 各専門家テーブルの周りに集まって模造紙をみながら発表
(各テーブル3分程度)
- ② 伏木先生のコメント
- ③ ホームグループに戻り感想の交流)

シンポジウム感想のまとめ

資料3

日 時 令和7年11月16日(日)

会 場 山ノ内町文化センター

参加者 74名 (一般参加者 54名 講師関係:8名 事務局:12名)

託児利用 4家庭 6名

1 座談会から学んだことや、今後にいかしたいこと

- ・学校という概念を大人たちが変えないといけないと思いました。
- ・学校を地域にひらく、地域でデザインしていくことが素晴らしいポテンシャルであること、その重要性を改めてまた学びました。またそれをどのように山ノ内町で実現していくかの方法論の議論が重要になると思いました。
- ・3名の座談会でのお話、熱が感じられてとても良かった。上からでなく寄り添った語り口で、人柄も好印象・聞きやすかった。
- ・すべてに通じることだと思いますが、当事者意識をどう高めるかが大事だと思いました。そのためにはつながりをどうつくるか、人が集まる工夫、集まったときにどうやったらワイワイつながれるかの工夫を考えていきたいです。
- ・統合の話が再開したのが4年前頃で、その頃から様々な説明会など出ていましたが、統合の意味や何をしたいのか、何を考えているのか全然分かりませんでした。先月南小の授業も見に行きましたが、統合の必要性を感じない私にとっては、何のための公開なのかよく分かりませんでした。しかし、今回のシンポジウムに参加したことにより、何を目指しているのか、何をしていきたいと思っているのか、よく分かった気がしました。地域とともにデザインする学校を目指して、これからを考えていきたいと思いました。
- ・どのような学校になっていくのかなど、たくさん学べました。どのような学校にしたいのか自分でも考えられたり、もっと学んで良い山ノ内にしていきたいです。ガッコウがシンボルの山ノ内町になつたら楽しいし、ワクワクします。
- ・ESD教育を充実させること、ほかの地域の活動を知ることができた。
- ・昔を懐かしむより、未来を考えることが大事である。
- ・地域がデザインする学校、学校がシンボルになる地域づくりができるとよいと思った。
- ・地域の人がクラブ活動(上田北小)に関わっていることがよいと思った。
- ・先入観で考えていた元を見直したい。
- ・すべてに通じることだと思いますが、当事者意識をどう高めるかが大事だと思いました。そのためにはつながりをどうつくるか、人が集まる工夫、集まったときにどうやったらワイワイつながれるかの工夫を考えていきたいです。
- ・学校づくり準備委員会、まちづくり子ども委員会等各種懇談会の多さ。地域住民の意識変革の必要性。

2 パネルディスカッションから学んだことや、今後にいかしたいこと

- ・学校づくりは専門家が考えるものではなく、もっともっとたくさんの人たちが山ノ内町の学校づくりに参加していただきたいと思いました。
- ・中学生の生の言葉を聞けたことが学びでした。大人が思う以上に前向きで未来志向で素晴らしい、中学生の思いが地域の人たちを動かす原動力になっていくといいなと思います。
- ・第2部 自分も登壇側だったが、パネラー参加の中学生を中心に話せたのはよかったです。
- ・中学生が自分のこと、周りのことを考えて学校づくりに関わろうとしていて感動しました。周りに素敵な大人がいることもいいですね。自分の地区でもそんな大人と子どものつながる機会を作れたらいいなと思います。
- ・いろいろな立場の人がいて、大切にしたいことも違って、様々な意見を聞くことができ、とても良かったです。ただ、それをどうやってまとめていくのか、各地区で大切にしたいことを、どう実現していくのか難しいなと思いました。自分の地区を大切にしたいけれど、町全体としてよく考えていきたいと思いました。

- ・他の学校がどのように取り組んでいるのか、実現することができる学校とはどのようなものなのか知れてとてもいい経験になりました。当事者意識をもって楽しいガッコウになるように考えて実現して行きたいと思いました。
- ・自分が大人になって、素敵だなあと思える学校がいい。自分も地域の一員として今日みたいなことに参加したい。
- ・ESD活動を中学校でも継続してできるようにする。
- ・大人の考え方の改革していくことが大事。
- ・放課後や休日でも学習できるスペースが学校の中にあるよいと思った。
- ・先生から受ける影響が大きいと感じた。(好きな先生、楽しい先生)
- ・学校で防災訓練とかねてお泊りができればと面白いと感じた。
- ・こどもも大人も行きたくなる学校づくりという視点中学生2人の受け答えがしっかりしていて、驚きました。
- ・中学生が自分のこと、周りのことを見て学校づくりに関わろうとしていて感動しました。周りに素敵な大人がいることもいいですね。自分の地区でもそんな大人と子どものつながる機会を作れたらいいなと思います。
- ・未来の学校のあり方について考えさせていただきました。ガッコウがシンボルとなる地域づくりという言葉が心に残りました。

3 意見交換の主な意見

- ・意見交換で最も強調されたのは、「学校づくり=地域・まちづくり」という認識のもと、地域全体でこどもたちを育していくという意志。

1. 地域主体の学校運営と責任

- ・学校づくりに地域が主体性をもってかかわる必要があることが示された。「学校づくりは地域づくり・まちづくり」であり、地域の人々が責任を持って子どもを育てるという意識改革が必要。
- ・学校の活動を地域行事(公民館など)と連携させ、地域を核として学校を運営していく方向を考えたい。

2. 多様な学びと卒業後の「10年生」の可能性

- ・「10年生」構想は、卒業生を含む多様な世代が「先生や生徒」となって互いに学び合う場として期待されている。
- ・新しい学校を含めた地域全体が学びの場としての意識をもち、不登校や画一的な学習に馴染めないこどもたちを含め、一人ひとりが「やりたいこと」を見つける多様な環境を提供できる町にしたい。

3. 熱量を広げる課題と対話の継続

- ・大人と中学生の直接的な対話は非常に有益であり、今後も継続的な機会(拡大まちづくりこども委員会など)の設置が必要。
- ・現在の課題は、この高い熱量と知識を参加者以外(町民全体)にどう広げ、全員参加型の学校づくりへつなげていくかという点。

4 全体を通して気がついたこと

- ・中学生の二人が考えをしっかり持っていて素晴らしいと思いました。
- ・シンポジウムだけでなく、第3部で意見交換の場を設けていただいたことで、自分の考えを人に伝えたり、他の人の考えを共有できたりしたことがとても有意義でした。
- ・気になった言葉をリアルタイム収集は○だけど、もし参加者がもっと多様だった場合もうひと手段アナログなものもあるといいと感じた。いいね!と、思ったら上げられる小さい旗とか。自分が企画する際にも、集まる人が反応を示しやすい多様な仕組み作りをしたいなど視点を得た。できるアイデアから試したいと思う。
- ・素敵な大人がたくさんいて、そんな大人に子どもが優しく包まれ、安心して自分を出す場面がありました。子どものためにと考えるのであれば、やはりまずは大人が楽しみ、ワクワクし、幸せを感じられるコミュニティづくりからかなと思いました。
- ・最後に、山ノ内に教員が来たいと思うという話がありました。少し前から思っていることがあります。教員

の経験としてはまだですが、様々な立場を経験して、それこそ山ノ内に来る先生方の役に立つ立場として働けないかと感じます。サポートスタッフがいますが、その先生は子どもたちの前にはたてません。先生方の補充、支援として入る、それこそ、保育園から小学校へのつながりをするなど、先生方のためになるような、また、異動する先生方をつないでいくような役割ができたらいいのにと思います。先生方や、教育委員会の方も変わっていく中で、ずっと山ノ内の教育に携われるのもあります。ですが、本当に山ノ内に来る先生が楽しみに来てくれると私もうれしいです。本日はありがとうございました。

- ・非常にざくばらんな雰囲気の会で、参加しやすかったです。
- ・学校に行かない人たちも楽しめる学校づくりをしてほしい。周りの目が気になってしまいます。
- ・子どもたちの話が聞けて良かったです。
- ・素敵な大人がたくさんいて、そんな大人に子どもが優しく包まれ、安心して自分を出す場面がありました。子どものためにと考えるのであれば、やはりまずは大人が楽しみ、ワクワクし、幸せを感じられるコミュニティづくりからかなと思いました。

5 山ノ内町の新しい学校への期待

- ・給食は生徒が食べるだけではなく、生徒も作って食べるという機会が作れたら面白いと思いました。また授業は先生から教わるだけでなく、上級生や高校生が教えてくれる授業があるといいなあとと思いました。先生は授業の教え方を教える役割にならうなど。
- ・素晴らしい議論が行われていると思います。この議論を結実させて山ノ内モデルの学校を発信していくと、全国で課題になっている（特に過疎地域、中山間地域の）地域づくりのあり方に一石を投じることができるのではないかと思います。
- ・統合学校ができるところがゴールではなく、今が助走で学校開始がスタート。社会と同様に、絶えず柔軟に変化していく場所として生まれてほしいと期待している。この地にいる限りずっと関心を寄せたいと思う。
- ・大変な道のりだと思いますが、素敵な道を切り拓こうとされていることにリスペクトしかありません。陰ながら応援しています。
- ・新しい学校へというか、新しい学校が始まるまで、もっとたくさんの人々に興味をもって、参加してもらいたい。どうしたら、参加してもらえるかな…。
- ・先生たちも町の人達も生徒もみんなが大好きで自慢できるような楽しい学校になりそうだなと思、とてもワクワクしました。
- ・本日はお世話になりました。きょうはこれから開校する義務教育学校に関わる「夢」の部分が多く語られたと思います。一方で、終盤で伏木先生が指摘された全国の不登校35万人のこと、また中学生から「学校になじめない人もいるので…」という話は、山ノ内町としては避けては通れない課題だろうと思います。東小は、かつて学年4クラスあったころの校舎を利用して、各学年とも2教室程度を予備室として利用しています。しかし、新しい学校が開校すれば、今のような余裕のある生活は望むことはできません。そのことが、子どもたちに負の影響を与えることのないよう、最大限の敷地を確保していただくよう要望したいと思います。
- ・一人一人の違いを分かって、不登校と呼ばれる人が少しでも減るといいなと思う。
- ・子どもたちの話を多く聞いて、楽しく過ごせる学校にしてください。
- ・大変な道のりだと思いますが、素敵な道を切り拓こうとされていることにリスペクトしかありません。陰ながら応援しています。
- ・県内でもこれから参考にさせていただける事例だと思いました。たくさん学ばせていただきました。

6 今後話を聞いてみたい方

- ・小学生、中学生、じっさいに現場で教育されている先生方（特にこれからの新しい学校教育を担っていく若い先生など）。
- ・第一希望 安宅和人さん（風の谷プロジェクト関係者なら他の人でも良い）。現状は、著名人に話を聞くより町民同士が深い対話をする場作りがもっと必要だと思っている。
- ・全国の新しい取り組みをしている学校の方の話をリモートでつないで紹介してもらっても良いと思う。

7 テキストマイニングの結果

いけない 生まれる 育つ 与える おいしい 関わる 出会う
見る
作る 子ども 子どもたち 農業
江戸時代 づくり 行事 教育課程 学校 給食 地域住民
変わる 住民 地域
ボケベル 新しい 行く 通学 学習
寺子屋 残す 担う 効的な
地域 10年生 楽しい 良い
立派な
多彩な 自由な
原風景
コミュニティスクール
ガッコウ ならな
当事者意識
卒業生 大人
等身大 行けない
知らない 高い 幸せな 合う
シンボル たべる こども 葉な
デザイン
楽しい
考える 知る
追う
等身大 行けない

山ノ内 一町

山ノ内町立統合学校整備基本方針 (案)

～未来につながるワクワク学校共創プラン～

令和7年11月現在

山ノ内町

目 次

第1章 整備基本方針の位置付け

1 学校統合における背景・目的	-----	1
2 学校統合に係るこれまでの経緯	-----	1
3 整備基本方針の位置付け	-----	2

第2章 基本構想

1 教育の基本方針	-----	3
2 統合学校の目指す姿	-----	3

第3章 基本計画

1 統合学校づくりのコンセプト (考え方)	-----	6
2 学校規模	-----	7
3 計画地の状況	-----	7
4 主な想定施設	-----	9
5 施設の特色	-----	10
6 開校に向けた取り組み	-----	11
7 スケジュール	-----	12
8 その他の事項	-----	12

第4章 廃校跡地利用の検討

-----	13
-------	----

第1章 整備基本方針の位置付け

1 学校統合における背景・目的

全国的に人口減少や少子高齢化が進展するなか、本町でも人口減少が続きし、令和11年には町内の児童生徒数が500人を下回ることが見込まれています。人口の減少は、財政基盤にも大きく影響を与え、学校も含め公共施設の持続可能な運営が求められるなか、施設の集約化や再編が進み、全国的にも将来を見据えた学校再編が活発に行われています。

グローバル化の進行など社会情勢が大きく変わる中で、従来の画一的な教育よりも地域の特徴を生かした多様な価値観を育むような教育が求められるなど、教育の在り方も変化しつつあります。

本町では未来を生きるこどもたちはもちろん、町にかかわるすべての人の多様な教育的ニーズに対応できる学びの環境を整えることを目的に、学校統合を進めることとし、こどもたちや保護者、地域住民の思いを考慮しながら、「こどもたちや地域にとって『より望ましい新しい学校』はどうあるべきか」という視点で学校づくりに取り組みます。

2 学校統合に係るこれまでの経緯

学校統合にあたっては、平成26年度に小学校適正規模適正配置等審議会を設置し、町内小学校における「適正規模の基準」、「適正配置の基本的な考え方」、「教育環境の整備」に係る答申が出されました。また平成27年8月開催の山ノ内町総合教育会議では、今後の小学校の在り方として「平成29年度に北小学校を西小学校に統合し、平成34年度（令和4年度）を目標に小学校を1校統合する。小中連携教育を推進するため中学校敷地に小学校校舎を増築する。」とした方針が示され、検討を進めることとなりました。

しかしながら、平成29年8月開催の総合教育会議では、「1校統合の方針は変更しないが令和4年度での中学校敷地での小学校校舎の増築は断念。年間出生数が50～60人程度継続する見込みとなったときに、改めて1校統合を検討する」とした方針が示され当面の間、統合は行わないことになりました。そのような中で、令和2年度には更なる出生数の減少が見込まれたことから各地区で懇談会等を実施し、令和4年3月に「山ノ内町立小学校適正規模適正配置に係る基本方針」をまとめ、小学校の統合場所を中学校敷地と示しました。

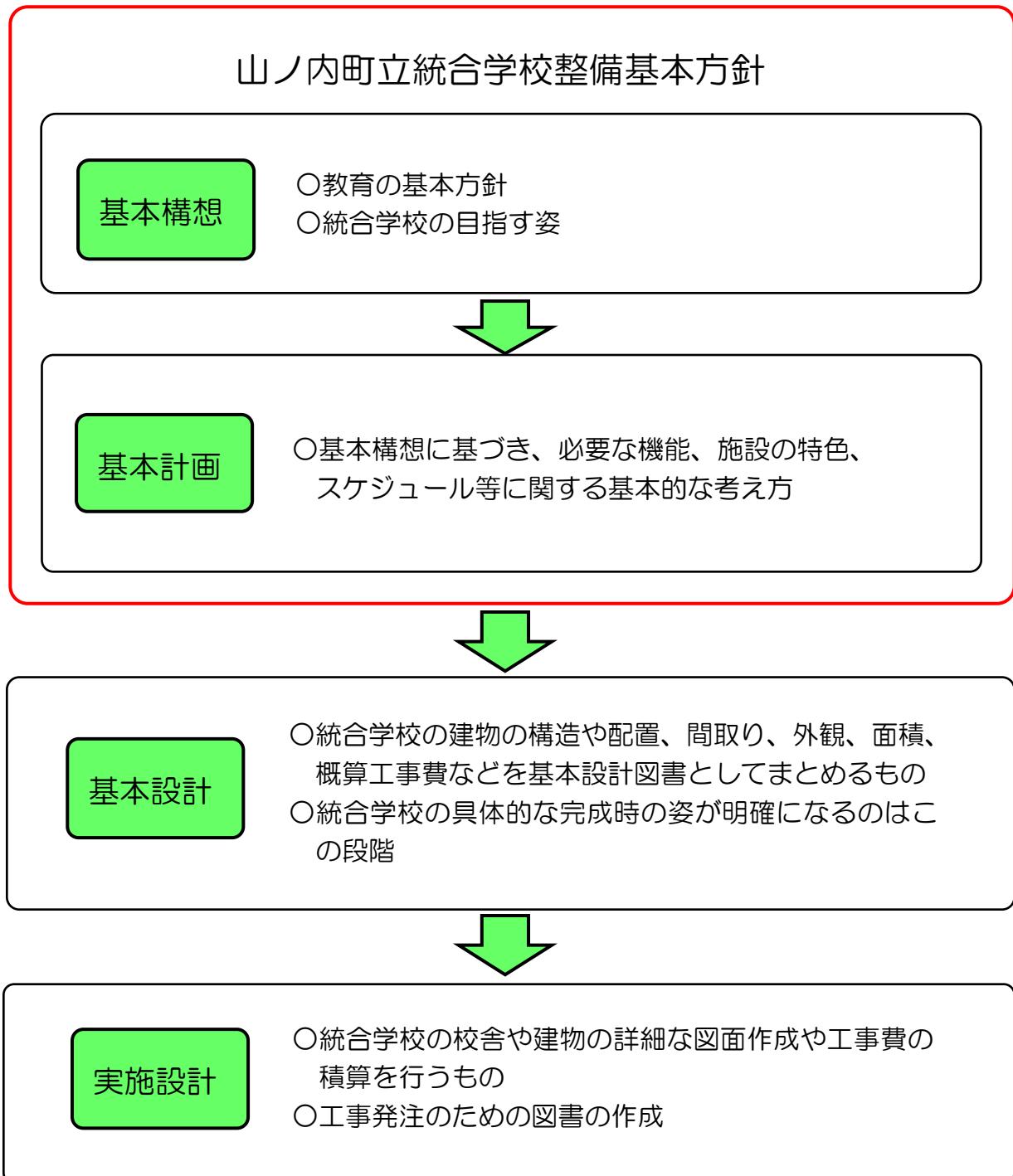
それを受け令和4年度に山ノ内町立小学校統合準備委員会を設置し、中学校敷地での小学校3校統合を基本とする「山ノ内町立統合小学校整備計画（案）」を策定しました。令和5年度から計画に基づき統合に向けた準備・調整を行う予定でしたが、町との協議の中で、小学校統合は中学校敷地での統合のみならず、既存小学校の活用も含めた検討を求められ、統合位置の決定に至りませんでした。

そのため、令和6年度に再度、小学校適正規模適正配置等審議会を開催し、「適正規模・適正配置」に係る諮問を行い、審議会において学校統合の在り方や統合の時期、小中一貫教育について検討され答申が出されました。教育委員会では答申を受け、令和7年3月に学校統合に向けた指針となる「山ノ内町立学校適正規模適正配置に係る基本方針（改定版）」を策定し、中学校敷地において令和12年4月に3小学校と中学校を統合した義務教育学校の開校を目指す方針を決定しました。

3 整備基本方針の位置付け

山ノ内町教育委員会では審議会からの答申を受け、児童生徒のよりよい教育環境の整備と教育の質の一層の充実を図るため、山ノ内町こどもワクワク教育未来ビジョンを基本に、令和7年3月に「山ノ内町立学校適正規模及び適正配置に係る基本方針」を改定しました。

本計画は、この方針に基づき3小学校と中学校を統合し義務教育学校の設置に向けた、統合学校整備事業に関する基本的な事項について定めるものです。



第2章 基本構想

1 教育の基本方針

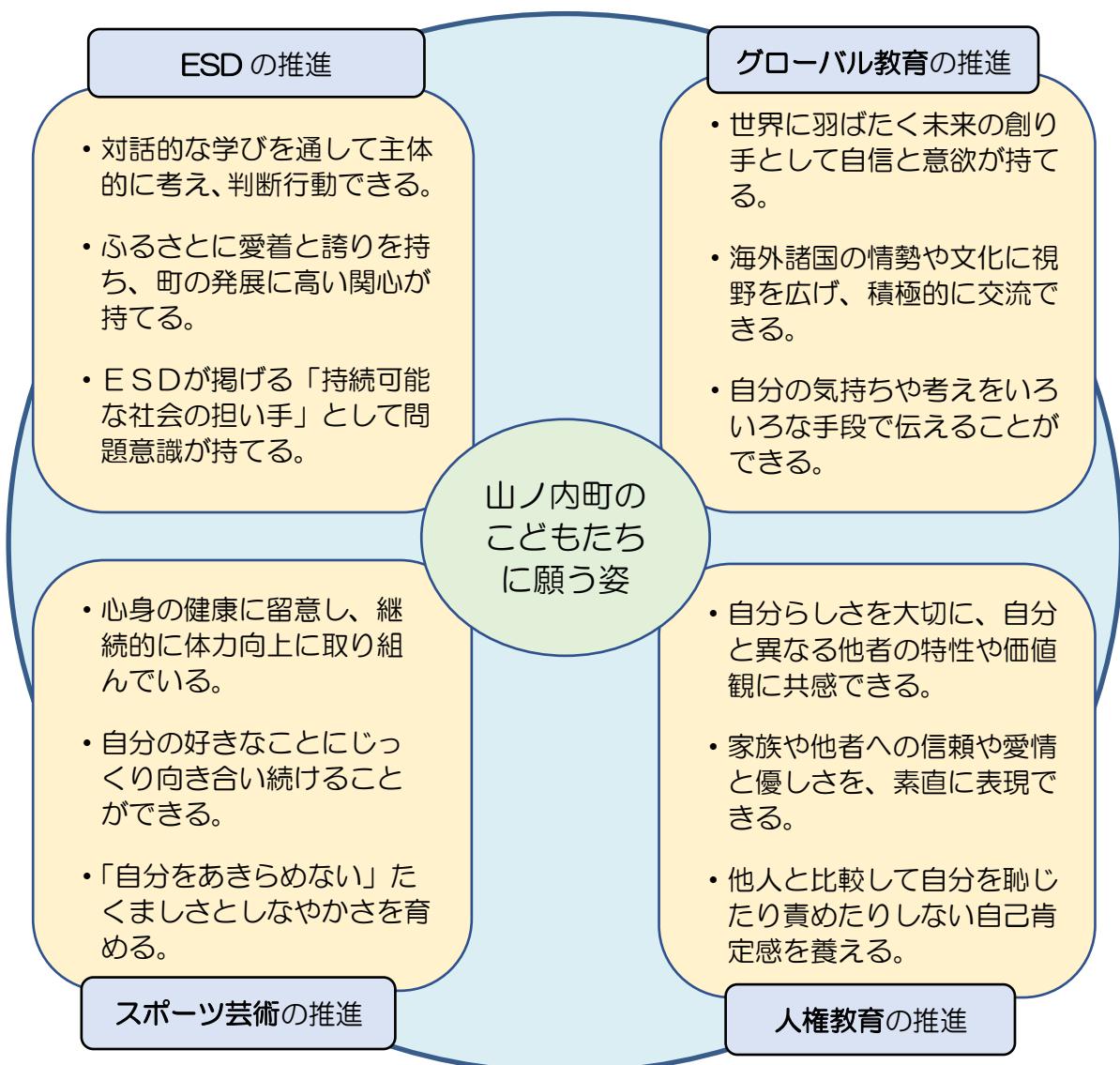
最上位目標

こども一人ひとりが自らの興味関心をワクワクしながら 楽しく深めることのできる学び

一人ひとりの個性を尊重し、地域に根差した体験活動や様々な人との交流を通して、世界に向けた広い視野と郷土を愛する心を育み、たくましく未来を拓き創造していくこどもたちの育成を目指す。

2 統合学校の目指す姿

(1) 願う姿の実現のための重点となる教育（大切にしたい山ノ内らしい4つの学び）



● ESD (持続可能な社会の担い手になるための学び)

- ・山ノ内町全体をフィールドに、多様な地域資源を活用した体験重視の学びを拡げます。
- ・ユネスコスクールとして環境教育や平和学習などに取り組むとともに、県内外や海外の学校とも積極的な異文化交流を目指します。

● グローバル教育 (外国語を習得し世界を学ぶ)

- ・世界に視野を広げ、諸外国と交流できる英会話力と意欲を育み多文化共生を目指します。
- ・海外のこどもたちとともに学ぶ機会を大切にします。

● スポーツ芸術 (オールシーズン、複数のスポーツと芸術に触れる)

- ・様々なスポーツと芸術活動を楽しみ、健康的な心と体を育みます。
- ・スノースポーツをはじめ、オールシーズンで幅広い分野のアスリートを支える環境づくりを進めます。

● 人権教育 (誰一人取り残さない一人ひとりの学びを支える)

- ・こどもが自らの基本的人権を学び、社会のあらゆる差別に立ち向かう姿勢を培います。
- ・こどもたち一人ひとりが持ち味を發揮し、それを尊重しあえる環境づくりを進めます。

- ・4つの学びは山ノ内町の「歴史・伝統文化・暮らし」を土壤とし、こどもたちの「ふるさとへの愛着と誇り」を醸成する。
- ・4つの学びを幼児期から大切にし、15歳まで切れ目なくつなげていく。
- ・4つの学びの全てにおいて、「ICT技術（情報収集、整理、分析、表現、発信）」を積極的に活用する。
- ・4つの学びに基づき、学校のカリキュラム、授業内容、教育活動等を教科横断的に柔軟に取り組む。

(2) 9年間の一貫した教育の必要性（期待される効果）

● 7歳から15歳までの9年間はこどもが大きく成長し、社会に巣立つための様々な体験に挑戦できる重要な期間であることから、9年間の学びの連続性や一貫性を確保しつつ、町が重点とする「4つの学び」の効果を最大限に發揮するため、「義務教育学校（小学校と中学校が一体となった9年制の学校）」を設置します。

学びの連続性と質の向上の観点から

- ・9年間継続した ESD の取り組みができ、批判的に考える力、未来像を予測して計画を立てる力、多面的・総合的に考える力、コミュニケーションを図る力などの能力を身につけることができる。
- ・外国語教育が充実した学校環境の中で、授業だけでなく、様々な学校生活の場面で英語に触れあい、積極的に英語を使おうとする態度を育成し英会話力を高めていく。（ALTの複数配置など）
- ・1年生から9年生までが一緒に活動することでスポーツや文化芸術への興味が向上し、積極的な姿勢や技術、精神的な発達が図られる。
- ・こどもの発達段階に応じた9年間の連続した人権教育を行うことで、自分や相手を尊重する心を育み、一人ひとりが安心して過ごすことができる。また、いじめや差別などの人権問題について、自ら考え人権を守ろうとする意識や態度を身につけられる。
- ・すべてのこどもが9年間一緒に学校生活を過ごすことで「ALL やまのうち」の意識が醸成できる。

心身の健やかな成長の観点から

- ・異学年交流（日常の学習や各種行事）による精神的な発達が促進される。（下級生への手本、上級生への憧れなど）
- ・9年間連續した児童生徒の心のケアが図られる。（中1ギャップの解消）
- ・1～9年生が一緒に登下校することで通学の安全性を確保する。（不審者、鳥獣対策）
- ・教師間の密な連携がとりやすくなり、子どもの育ちや悩みを把握しやすくなる。

専門性・独自性を活かした高度な教育の観点から

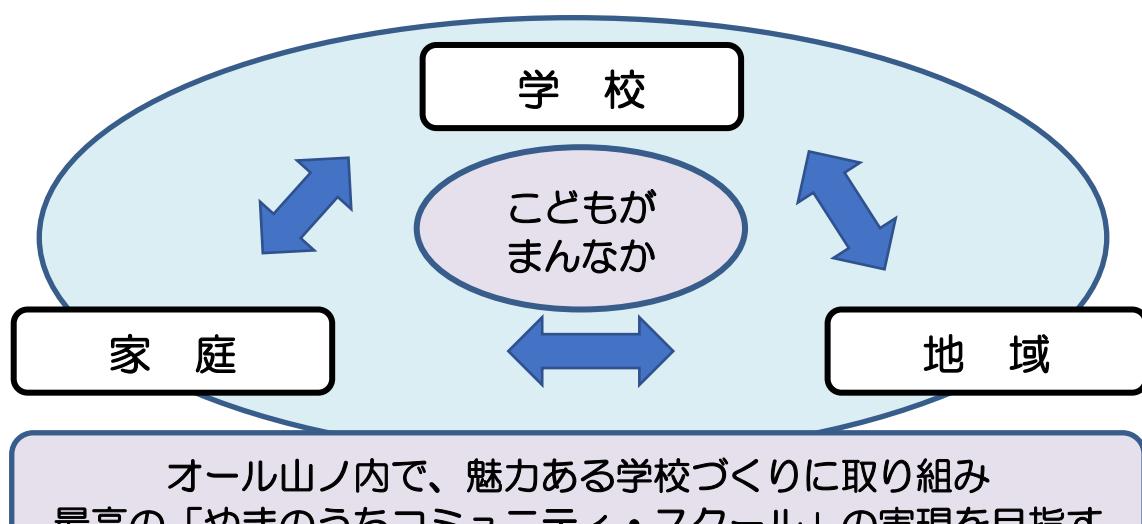
- ・教科担任制により後期課程（中学校段階）の教員が専門性を生かして前期課程（小学校段階）の授業にかかわることで資質・能力の向上が図れる。（教員間の連携による乗り入れ授業）
- ・独自教科等の設置による特色ある教育ができる。

学校運営の観点から

- ・教員や支援員など限りある人材の有効活用や、施設等の維持管理に係る経費の効率化・合理化が可能となり、4つの学びに集中投資できる。
- ・敷地と施設、設備を共有することで、より充実した教育環境を整備できる。
- ・行事やイベントなどを同時にを行うことで保護者の負担が見込まれる。
- ・PTAの一本化が図れる。

（3）子ども・教育に寄り添う町全体をフィールドにした「コミュニティ・スクール」

- ・本町の地域人材の力と豊かな地域資源を活かして、町ならではの学びを実現するため、魅力的で充実したコミュニティ・スクールを創ります。
- ・コミュニティ・スクールとして学校運営協議会および地域学校協働本部を構成し、PTAや育成会、地域活動団体などの団体と融合していきます。
- ・学校は地域全体でこどもたちを支えるシンボルとなり、学校本来の役割に専念し、学び舎としての機能と質を高めていきます。
- ・町全体（学校・家庭・地域）で「子どもにやさしい町づくり」を目指します。



第3章 基本計画

1 統合学校づくりのコンセプト（考え方）

統合学校は、地域全体を学びのフィールドとし、学校を核とした新しいコミュニティを形成することで、幅広い人々が集まり、つながり、多様な価値観に触れ、子どもと大人がともに学び育ち合う「共育」の場となることを目指します。そして、子どもたちだけでなく、地域住民にとっても居場所であり、学びの拠点となる施設とします。

◆ 学校づくりにおいて施設面で大切にしたいこと

- 既存の中学校校舎をいかしながら、新規に建設する校舎と一体感のある施設にする。
- 多様な人々のつながりをうみやすい施設にする。
- 子どもと大人がともに学び育つことを支える施設にする。
- 誰もが心身ともに安心して過ごせる、多様なタイプの居場所や学び方が認められる施設にする。

コンセプト		主な内容
1	ESD教育の推進 「多様な地域資源を活用した体験重視の学び」	<ul style="list-style-type: none">ESDの学びを共有・発信できる施設にする。区切られた学習スペース（ICTエリアを含む）を整備する。リビングのような、集まり交流し、協働的に学ぶ場を整備する。
2	グローバル教育の推進 「外国語を習得し世界を学ぶ」	<ul style="list-style-type: none">英語をはじめとした外国語で活発に活動できる施設にする。グローバル社会に対応した学習活動ができる施設にする。ICTを活用し、遠隔地の人とともに学べる施設にする。
3	スポーツ・芸術の推進 「スポーツと芸術を楽しみ健康的な心と体を育む」	<ul style="list-style-type: none">充実した体育、スポーツ活動ができる施設にする。軽運動等が可能な施設にする。文化芸術を身近に感じられる施設にする。
4	人権教育の推進 「誰一人取り残さない一人ひとりの学びを支える」	<ul style="list-style-type: none">バリアフリー化され、誰もが安心して過ごせる施設にする。憩いの場やクールダウンの場となる小空間やベンチを整備する。特別支援教育・インクルーシブ教育に配慮した施設にする。
5	コミュニティ・スクールの充実 「地域全体で子どもたちを支える」	<ul style="list-style-type: none">地域とともに諸行事を行うことを想定した施設にする。子どもと大人がともに学び育つ施設にする。地域住民が気軽に集いつながる、交流スペースを整備する。
6	義務教育学校 「9年制の連続した質の高い教育の推進」	<ul style="list-style-type: none">既存校舎を活用し、小中学校で共有可能な施設にする。オープンスペースや可動壁の活用など学年を越えたつながりが広がり、柔軟な学習形態に対応できる施設にする。
7	その他 「自然環境に配慮し安心してのびのび過ごせる学校」	<ul style="list-style-type: none">自然景観に配慮し、町の特徴や魅力を感じられる施設にする。ライフサイクルコストを考慮し、省エネルギー化、再生可能エネルギーを活用した施設にする。災害時の地域の避難所として機能するための設備や施設にする。

2 想定学校規模

○ 年度別学年ごとの児童生徒数

(令和7年4月1日時点)

学年	令和7年度			令和10年度			令和11年度			令和12年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
小1	26	31	57	23	25	48	18	32	50	22	25	47
小2	29	27	56	22	31	53	23	25	48	18	32	50
小3	29	27	56	24	20	44	22	31	53	23	25	48
小4	30	27	57	26	31	57	24	20	44	22	31	53
小5	33	40	73	29	27	56	26	31	57	24	20	44
小6	45	26	71	29	27	56	29	27	56	26	31	57
小学計	192	178	370	153	161	314	142	166	308	135	164	299
中1	25	33	58	30	27	57	29	27	56	29	27	56
中2	34	28	62	33	40	73	30	27	57	29	27	56
中3	31	40	71	45	26	71	33	40	73	30	27	57
中学計	90	101	191	108	93	201	92	94	186	88	81	169
合 計	282	279	561	261	254	515	234	260	494	223	245	468

開校予定年度

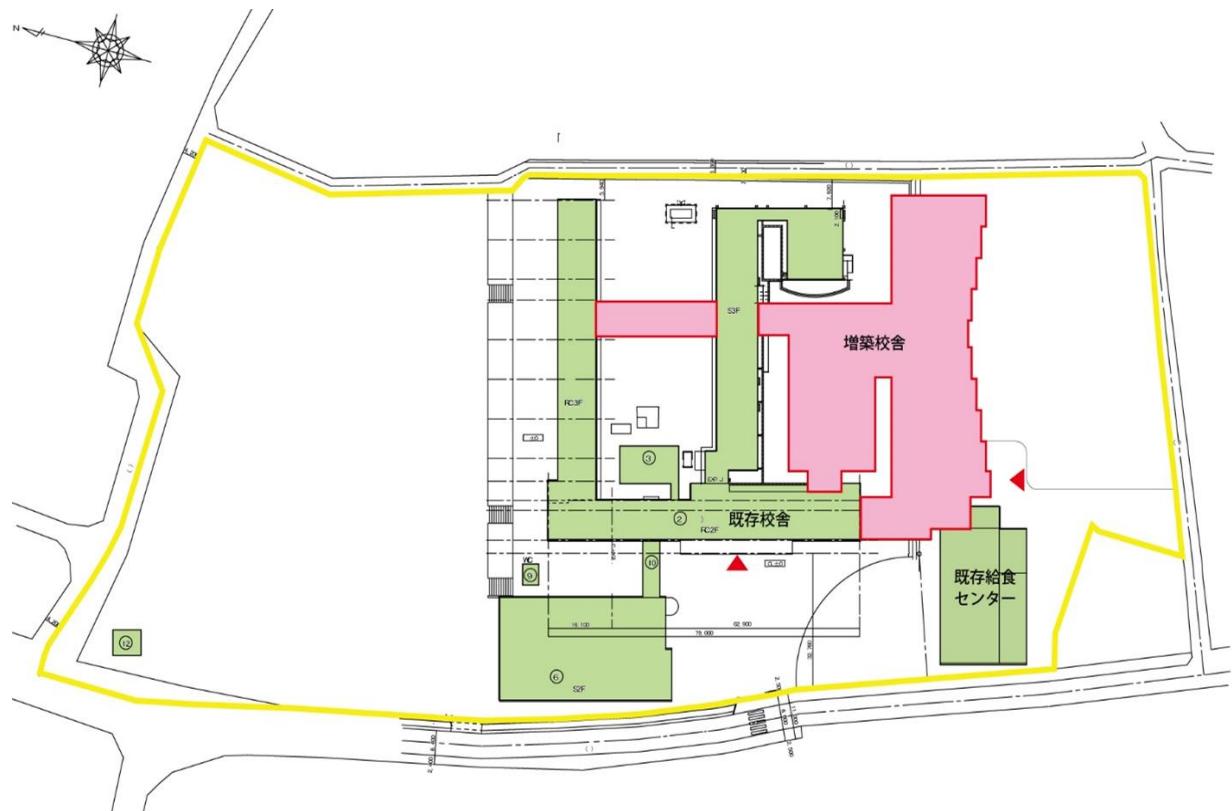
3 計画地の状況

所 在 地	山ノ内町大字平穏3397-1 他	
面 積	約 32, 083m ² (給食センター敷地含む)	
用 途 地 域	第1種中高層住居専用地域	
防 火・準防 火 地 域	指定なし	
建 べ い 率	60%	
容 積 率	200%	
周 辺 道 路 等	(東側) 町道統中線 (南側) 町道統中線 (西側) 町道湯田中夜間瀬線	幅員 2.9~3.2m 幅員 3.4~3.8m 幅員 6.4~6.9m

○ 統合学校建設計画地の航空写真



○統合学校の増築校舎配置イメージ図



4 主な想定施設

既存の中学校施設を活用した新しい義務教育学校では、以下の施設を想定しています。

これらの施設を「環境負荷の低減」、「バリアフリーへの配慮」、「防犯・防災機能の確保」、「カーム（静）とアクティブ（動）のゾーニング」及び「地域交流と学校生活の動線分離と接続」を重要課題として基本設計をすすめます。

教 室	普通教室（18）（増築校舎の教室には手洗い場）、特別支援教室（6） 学習室（連学年に1室程度）、児童・生徒会室
特 別 教 室	メディアラウンジ（多機能図書館機能/ICTエリア）、理科室（3）、理科準備室、図工室、美術室、美術準備室、調理室、被服室、家庭科準備室、音楽室（2）、音楽準備室、生活科室、技術室、外国語教室、ESD/地域連携教室（階段教室）
生 活 交 流 空 間	玄関、昇降口、階段、エレベーター、廊下、児童・生徒用トイレ、多目的トイレ（5）、手洗い所、ワークスペース、OZAWAroom、ランチルーム/カフェ
管 理 諸 室	校長室、職員室、事務室、保健室、印刷室、会議室、相談室（2）、通級指導教室、資料室、教材室、職員休憩室、職員更衣室、職員用トイレ、機械室、放送室、用務員室、（給食コンテナ室）
運 動 施 設	体育館（更衣室・トイレ・多目的トイレを含む）、小体育館（更衣室・トイレ・多目的トイレを含む）、グラウンド
外 構 ほ か	駐車場、駐輪場、バス乗降ロータリー、花壇、植栽、屋外遊具、交流スペース、中庭（ステージ）動植物育成施設、冬期耐雪スペース

5 施設の特色

主な施設整備	山ノ内町立統合学校の特色
外観	山ノ内町の自然・景観に調和した色・形状とする。
内装	地元産木材を活用し、木のぬくもりのある内装とする。
普通教室	1学年30人規模学級の2クラス編成を基本に整備し、ICT教育に対応する設備（大型モニター等）を備えた教室とする。また可動壁の使用や廊下との一体的なつくりなど、一斉指導のみではない多様な学習の形態や少人数学習にも対応できる工夫をする。
廊下	弾力的な学習が展開できるよう、ワークスペースを兼ねた「リビングのような」ゆとりのある交流空間とする。 丸テーブルやベンチ、ソファー、小空間（デン）などを設置し交流が生まれる空間にする。
メディアラウンジ (多機能図書館機能/ ICTエリア)	主体的な調べ学習や異学年交流ができる環境とする。図書エリアは児童・生徒が本に囲まれ、本を手に取りたくなるような空間とする。学年に応じた本のディスプレイによるゾーニングや、カウンターを設置し、個別の学習ができる環境も整備する。 また、ICTエリアは大型スクリーンやICT機器を整備し、校内外の人と協働的に学び、それを共有する場として整備する。多様な学習形態への教員のサポートが受けやすい動線を確保する。
体育館	社会体育施設や、災害避難時における地域住民の避難所としての機能を有した施設とする。冷暖房を整備し、地域住民の利用にも配慮する。
ESD/地域連携教室 (階段教室)	ESDエリアはグループなどでのESD学習だけでなく、地域の講師を招いた学習や、児童生徒間での学習成果の共有、地域の方に発表・発信する場としても整備する。講演会なども想定し大型スクリーンや常設のプロジェクター、放送設備などを整備する。 地域連携エリアはこどもと大人がともに学び育つ、だれもが日常的に集える交流拠点とする。大人同士の緩やかなネットワークも育む、地域と学校のハブとなるエリアとする。ランチルーム/カフェ機能を連携させ、来訪者が学校の様子を感じやすいよう、メインアプローチに接続した配置を検討する。
ランチルーム/カフェ	児童生徒の給食はもちろんのこと、給食時間帯以外は地域住民にも解放し、「たてのつながり」と「よこのひろがり」を生み出すきっかけとなる空間として整備する。飲料や焼き菓子の提供も検討する。
環境配慮対策 (省エネ化)	自然採光・自然換気などを積極的に確保し、LED照明等省エネに配慮した設備とする。太陽光発電・地中熱利用等の再生可能エネルギーを活用し、環境負担を低減する。
その他	トイレや更衣室はユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい設備を整備する。

6 開校に向けた取り組み

- 令和12年4月開校を目指し次の取り組みを行います。
- 学校の統合を円滑に行うために学校づくり準備委員会に専門部会を設置し、個別課題事項の詳細について検討を行います。検討の過程や決定事項などは、各学校のPTA組織や町の広報等を利用して広く周知します。
 - **こども、保護者、地域住民との対話による合意形成を図りながら事業を推進します。**
 - 各校の歴史や伝統を継承しつつ、こどもたち・保護者・地域から愛される新たな学校づくりに努めます。
 - 3小学校及び中学校の閉校記念事業については、児童・生徒・保護者・地域住民・教職員・卒業生等多くの関係者の願いを踏まえて実施します。
 - 3小学校及び中学校の行事等を活用した児童生徒の交流などを計画し、関係の構築を図ります。
 - 3小学校及び中学校に導入されているコミュニティスクールの仕組みの充実を図り、保護者や地域住民が学校運営に参画することで、地域と学校の密接な協働関係を構築し、保護者や地域の交流・連携を促進し、「地域とともにある学校づくり」を目指します。
なお、令和12年の開校前に4校のいずれかで、法律にもとづく文部科学省がすすめるコミュニティ・スクール（文科型C・S）を先行して導入します。
 - 通学については、児童生徒が安心安全に通学出来るよう必要に応じ、道路管理者等関係機関に安全対策の整備や対策を要請します。
 - 通学方法は徒歩、スクールバス、路線バス、**鉄道**を基本とし、スクールバス通学区域やバス停の位置、また、学年及び季節によってのスクールバス通学のあり方について検討します。
 - 統合学校の校名・校章・校歌等については、選定方法を検討し決定を行います。
 - 義務教育学校を踏まえた9年間の一貫した教育課程のほか、ESD教育・グローバル教育・スポーツ芸術・人権教育の推進、ICTを積極的に活用したカリキュラムの研究及び実施準備等を行います。

7 スケジュール

	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
学校整備	整備基本方針 策定	整備基本計画 (基本設計) 統合学校の施設の検討	実施設計		校舎等建設工事
開校・閉校準備	学校づくり準備委員会 R7~/専門部会 R8~ 統合学校設置基本方針			(仮称) 学校開校準備委員会	
その他	3小学校跡地 利活用の検討		小学校跡地利活用に向けた調整 放課後児童対策の検討		

※ 開校準備については、主な事業・業務を掲載

8 その他の事項

(1) 施設（運動施設・駐車場・児童クラブ・給食センター等）

- 施設整備の詳細については、施設部会での協議、基本設計の中で検討します。
- プールについては、使用時期が夏期に限られ一定の敷地面積が必要となることから整備を行わず、水泳授業を近隣の民間事業者に委託することを検討します。
- 駐車場が不足する **それがあり、またスクールバスの駐車場および安全な乗降** のためのスペースが必要なことから、中学校周辺での用地確保に努めます。
- 児童クラブを含め放課後児童対策の在り方については、廃校となる施設の活用も含め、保護者などからの意見を踏まえ検討します。
- 給食センターについては、**老朽化が進んでいることから、施設の更新も含め** 検討します。

(2) コミュニティ・スクール（文科型コミュニティ・スクール）

- 町の豊かな地域資源を活かした魅力的で充実したコミュニティ・スクールをつくります。
- こどもと地域の交流**及び地域住民同士のかかわり、世代をこえた学びなど**を促進するため、文科型C・Sを導入し、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進を図ります。

第4章 廃校跡地利用の検討

- 新しい学校が義務教育学校として中学校敷地に開校することが決定し既存の3小学校が空き施設となることから、その有効活用について、保護者・地域・こどもたちとの懇談会を踏まえ、学校づくり準備委員会で議論しました。

後利用についての意見出しを12月に行い、1月に整備基本方針案として記載する。